

# K氏の食事支援について

かたくら明和園 高橋侑那

# 1. はじめに(実践の目的)

- K氏は支援拒否による欠食が週2, 3回程ある。
- 現状大きな体重変化はないが、食事量の安定化による体重の安定は必要。
- 固形物の摂取は昼食のみということもあり、限られた食事の中でもK氏に楽しんでいただきたいたいと考えた。

## 2. 方法

- ①本人理解（既往・障害特性の把握）
- ②K氏の意味（こだわり）を尊重した  
食事介助の実践



# 3. K氏について

## 《既往歴》

脳性麻痺・重度精神遅滞・変形性膝関節症・本態性血小板血症  
便秘・逆流性食道炎・食道裂孔ヘルニア・イレウス etc

## 《重度精神遅滞とは》

IQ20～34の範囲内。

生涯を通じて食事、身支度、入浴および排泄など広範囲におよぶ支援を必要とする。ほとんどの人に顕著な運動障害や、中枢神経系の障害を併発し、身体的な発達が十分に達成できない例が多くみられる。発語は最小限で、自分の要求をはっきり伝えられないため、体を使ったコミュニケーションを主とする。

### 3. K氏について

#### 《病歴》

- 2014.2 消化管出血により吐血、逆流性食道炎、食道裂孔ヘルニアにより入院。
- 2016.12 排便コントロール困難にて栄養補助飲料(エンシュア)開始。
- 2017.6 ウイルス性胃腸炎、逆流性胃腸炎により入院。
- 2018.12 吐血しイレウスにて入院。退院後高熱あり誤嚥性肺炎の診断。点滴実施。
- 2021.3~6 数十回嘔吐あり  
→嘔吐予防のための支援が必要

# 3. K氏について

## 《特性》

- 言語でのコミュニケーション・意思表示が困難
- こだわりが強い
- 過度な干渉を嫌う
- 環境の変化に敏感・適応することが苦手

## 《食事拒否》

- 「いや」と支援者の手を振り払う
- お盆や食器をテーブルから落とす
- 車椅子から降り居室に戻る



## 4. 実践方法詳細

以上を踏まえ…**こだわりに配慮した支援が必要**

- ①他利用者の食事が終わった後に介助を行う
- ②食事介助を行う位置を変える(横→正面)
- ③一品ずつ提供する



## 5. 実践結果

落ち着いた環境での食事・こだわりに沿った支援…

**欠食回数は減少した！**

◎食事に集中 ◎正面から視線を合わせる ◎拒否なく全食

しかし…週1, 2回は拒否による欠食がある



## 6. 考察

- 環境の変化や季節の変わり目は支援拒否が多い  
(例: 職員の異動・感染症対応期間 etc)
- 拒否があった際には過度に干渉しない  
→ **落ち着ける環境づくりが大切**
- 今後施設での生活も長い…  
穏やかに生活できるような支援を行なう

ご清聴ありがとうございました！

